

観世流 東北
大江山
 前田 飛南子
 宮下 昌子
 地謡 塩谷 恵
 前田 和子
 山下 あさの
 西野 翠舟

観世流 能
養老
 前シテ 樵翁
 後シテ 山神
 前ツレ 樵夫
 ワキ 勅使
 ワキツレ 従者
 ワキツレ 従者
 アイ 里人
 上野 朝彦
 上野 雄介
 福王 知登
 中村 宜成
 喜多 雅人
 善竹 隆平
 赤井 要佑
 成田 達志
 山本 寿弥也
 上田 慎也
 後見 上野 雄三
 赤井 きよ子
 地謡 上野 朝義
 梅若 基徳
 梅若 堯之
 井戸 良祐
 齊藤 信輔
 山田 薫昇
 伊原 昇一郎
 梅若 雄一郎

大蔵流 狂言
呼声
 シテ 太郎冠者 善竹 隆司
 アド 主 善竹 隆平
 アド 次郎冠者 上吉川 徹
 後見 小西 玲央

観世流 舞臺子
清経
 シテ 平清経 立花香寿子
 笛 森田 啓子
 小鼓 久田陽春子
 大鼓 辻 雅之
 地謡 梅若 猶義
 井戸 和男
 梅若 堯之
 長山 耕三
 山田 薫

観世流 仕舞
鶴之段 大西 礼久
笹之段 生一 知哉
玉之段 上野 朝義
笠之段 梅若 猶義
 地謡 上野 雄三
 山本 正人
 井戸 良祐
 山中 雅志

金剛流 能
雪
 シテ 雪の精 田中 敏文
 ワキ 旅僧 廣谷 和夫
 笛 貞光 訓義
 小鼓 清水 皓祐
 大鼓 守家 由訓
 後見 豊嶋彌左衛門
 豊嶋 幸洋
 向井 弘記
 地謡 谷口 雅彦
 山口 尚志
 中嶋 謙昌
 藤田 章三
 北川 米喜
 山口 冬吾

附祝言
 終了予定 13:45 頃

能 弱法師 (よろぼし)
 他人の讒言を信じて、子供の俊徳丸を放逐してしまった父親の高安通俊。春の時正の梅の薫る中、子の償いの為に四天王寺で修行をしていると、弱法師と呼ばれる盲目の乞食に出逢います。弱法師は、昔日の記憶を辿りつつ、心静かな日想観のさまを舞にて表現します。父は、その姿を見、彼こそが手放した我が子俊徳丸であると、共に手を引き高安の里に帰ったのでした。

能 小鍛冶 (こかじ)
 三条宗近(ワキ)が、二つの銘を持つ名刀「小狐丸」を造り出すお話を目出度い能に表現した曲です。帝の勅命を受けた宗近。相槌を任せると相手が無いことを悩み、稲荷明神に参拝します。そこに現れる少年が剣の靈験を語りつつ、相槌を務める約束をするのですが、彼こそが稲荷明神の化身であり、宗近は無事に剣を完成させる事が出来たのです。

[黒頭]の小書(特殊演出)は、より神格を持たせるものとなります。
狂言 魚説経 (うおぜつきょう)
 元漁師の出家は未だ御経を知りません。都人に抱えられた出家は早速読経する様乞われます。未だ御経を知らないとも言えず、何とか魚の名前を言い並べて凌ごうとします。たくさんの魚が登場する楽しい曲です

第2部 15:00 開演

観世流 能
弱法師 盲目之舞
 シテ 俊徳丸 赤松 禎友
 ワキ 高安通俊 福王 茂十郎
 アイ 通俊ノ下人 善竹 隆司
 笛 赤井 啓三
 小鼓 久田 舜一郎
 大鼓 辻 芳昭
 後見 大槻 文藏
 大槻 裕一
 地謡 浅井 文義
 齊藤 信隆
 山本 博通
 山本 正人
 武富 康之
 水田 雄晤
 鶴 克彦
 稲本 幹汰

金巻流 舞臺子
龍田
 シテ 龍田姫神 金春 穂高
 笛 野口 亮
 小鼓 荒木 建作
 大鼓 森山 泰幸
 太鼓 中田 一葉
 地謡 佐藤 俊之
 金春 飛翔
 金春 嘉織
 酒井 賢一

観世流 能
小鍛冶 黒頭
 前シテ 童子 今村 哲朗
 後シテ 稲荷明神
 前ワキ 三条宗近 喜多 雅人
 後ワキ 前同人 中村 宜成
 ワキツレ 勅使 小西 玲央
 アイ 宗近ノ下人
 笛 齊藤 敦史
 小鼓 上田 敦史
 大鼓 山本 哲也
 太鼓 中田 弘美
 後見 生一 知哉
 武富 康之
 地謡 大西 礼久
 寺澤 幸祐
 長山 耕三
 齊藤 信輔
 林本 大昭
 金子 克壬
 永田 誠士
 田中

— 休憩 15分 —

大蔵流 狂言
魚説経
 シテ 出家 善竹 彌五郎
 アド 施主 上西 良介
 後見 上吉川 徹
 地謡 辰巳 孝弥
 澤田 宏司
 渡邊 珪助
 畑 宏隆

観世流 仕舞
白楽天 山本 博通
敦盛 林本 大
江口 梅若 基徳
蟬丸 山中 雅志
昭君 大槻 裕一
 地謡 松浦 信一郎
 小西 弘通
 寺澤 幸祐
 水田 雄晤

宝生流 仕舞
兼平 辰巳 大二郎
籠太鼓 石黒 実都

附祝言
 終了予定 18:45 頃

第1部 10:00 開演

能 養老 (ようろう)
 雄略天皇の御代。美濃国、本巢の郡に不思議な泉が現われた為に臣下が視察に赴きます。そこに親子の民が勅使を迎え、帝の穏やかな御代を賛え、霊水を酌み交わしながら御代の恵みを寿いでいるうち、山神が現われて統治された代の穏やかさを祝福するお話です。颯爽とした神の舞(神舞)は、御代の

平和を願う気持ちが進められています。
能 雪 (ゆき)
 金剛流のみに伝わる三番目物で、一場面構成された曲です。摂津野田で雪に見舞われた旅の僧の前に、美しい女性が現われ、自分の迷いを晴らして欲しいと頼みます。月光の下、その女は袖を翻して細雪の舞を見せ夜明けと共に儚く消え失せます。

摂津の国は雪が積もりやすい～そんな場所を舞台とした小洒落た曲です。
狂言 呼声 (よびこえ)
 主人は無断欠勤をした太郎冠者を叱りに行きましたが、太郎冠者は居留守をします。主人は声色を変えたり、室町歌謡を用いて呼び出しますが…。主人側と太郎冠者との駆け引きが笑いを誘います。